

## 青森市総合計画審議会 第1回 第1分科会 議事要旨

【日 時】平成30年5月9日(水) 14:45～17:00

【場 所】ホテル青森 4階 錦鶏の間

【出席者】内山 清 分科会長、櫻田 清明 委員、奈良 秀則 委員、西 秀記 委員、  
福士 修身 委員 計5名

【欠席者】なし

【オブザーバー・傍聴者等】なし

【事務局】堀内経済部長、百田経済部理事、梅田農林水産部長、  
相馬浪岡事務所副所長、横内企画部理事  
野宮企画調整課主査、福田企画調整課主査 計7名

### 【配付資料】

- ・青森市総合計画審議会 分科会の流れ
- ・青森市新総合計画「元気都市あおもり 市民ビジョン」後期基本計画フォローアップ表
- ・各種統計データ
- ・各種指標データ
- ・日程調整表
- ・青森市新総合計画「元気都市あおもり 市民ビジョン」後期基本計画 冊子

### 【会議の概要】

○本分科会の役割とスケジュールの再確認したのち、各資料の見方、各施策における本市の課題について、各委員が意見を出し合った。

### ○審議、質疑応答の概要

#### 「産業・雇用」分野

(委員)

- ・(フォローアップ表の) 一番左に記載のあるABCが自己判断の評価ということか。

(事務局)

- ・市内部で判断した評価になる。

(委員)

- ・そうするとC評価はもう少しなんとかならなかったのかというような、(A・B評価は)更に推進してプラスを目指すべきみたいな感じで検討することになる。
- ・施策「市場産業の経営体質の強化」、倒産件数と融資件数と2つの指標で表しているが、経営環境というのは倒産件数でなく、廃業件数を見ないと実態が見えてこない。指標として倒産件数にこだわると結びつかない。
- ・融資件数だけを指標にすると、銀行の融資姿勢によっても大きく変わる。少し前までは銀行は非常に厳しく、貸さなかったが、最近はそうでないので当然融資件数が増える。会議

所で小規模事業者向けの貸付制度があるが、申し込み件数は年々減っている。融資件数だけを見ても、たくさんある別な側面を見落としてしまう。

- ・廃業件数は倒産件数の何倍もあると言われており、廃業件数の方が問題である。倒産する会社よりも、後継者がいなくて廃業するという企業を誰かが代わりに後を引き継ぐという体制を作れば、その事業はどんどん承継されるので、そちらに目を向ける必要がある。
- ・県信用保証協会が行う創業者向け保証制度の利用件数が増えている。創業者が銀行から資金を借りる際に保証協会が公的な保証人となり、資金調達を容易にしているが、そのような部分への行政の支援が必要である。
- ・指標「商店街での新規開業件数」は伸びているというか、伸ばしていかないといけない。時代に合わない産業が淘汰され、今の時代に必要なものを起業していくという循環により、ニーズに合った業種構成に替わってきている。
- ・ネット通販を筆頭に購入ルートが多様化しており、小売業が厳しい状況である。
- ・どこでも手軽に買える時代となり、買って運んでくれる。そういったIT（情報技術）に関わった企業が多く、商店街に足を運ぶ人数も当然減るといふ悪循環が全国的に広がっている。
- ・青森市といえばこれ、という核となる産業はあまり存在していない。
- ・教育旅行誘致の時にも課題になった話であるが、団体のお客さんのご飯食べる所が無いが、その事業をやる立場になって考えるとなかなか難しい。
- ・浪岡のアップルヒルはそういった部分（団体客の飲食スペースが無い）を一部補完していると思うが、お客さんがどのくらい消費しているのかが不明。
- ・「産業・雇用」分野は一丁目一番地だと思うが、大きな骨太で10年間これを継続したらこうなるよというのがなかなか目に見えてこない。やはり経済を良くしようとすると、成長している分野と仲良くしないといけないので、それをもっとうまく取り入れる仕組みが欲しい。
- ・歴史的な話でいうと、この街は物流の拠点として鉄道、海路、最近では航空機と、物流によってそこに付随する飲食、小売が張り付いてきた経緯があるので、基本なところは物流の拠点ということに大事にしないといけない。また結節点機能を大事にしていけないといけない。
- ・交通インフラが充実し、人は取り込めているが、物を取り込めているのか、プラス金を取り込めているのかという話が課題である。
- ・行政は行政の守備範囲があるが、民間のノウハウを活用しながら、思い切った部分へ行政も手を貸せば、もっと青森は延びると思う。また、人口減少や高齢化社会については仕方がないが、いかにして人口定住を進めるかが課題である
- ・業種さまざまある中で、人口減少の影響を一番受けているのは農林水産業である。
- ・（人口減少の影響は）全般に渡っているが、建設業も大きく影響を受けている。
- ・企業誘致しても、採用出来る人がいないので立地できないといったケースが小売業であ

- る。大手のコンビニが、ここで開業するといっても働く人がいないからオープンできないといった事情。しかも三交代で夜勤もあり、なかなか人員確保出来ず、オープンできない。
- ・青森は生活環境、自然はいっぱいあるし、色々あって、17時半とか18時位に終業して家に帰って、それからスポーツを楽しむとか、趣味、アウトドアを楽しむとか、そうすれば素晴らしい天国になる。しかし、いつまでも（職場には）電気が付いている。
  - ・指標「有効求人倍率」は極端に言えば何もなくても毎年上がる。実は深刻なのはミスマッチで、求める側と希望する側の条件が全然合っていない。ミスマッチ状態が相当厳しくなっていると感じている。
  - ・高校生の就職率が98.3%と過去最高に近く、6割近くが県内、地元ですが、5割に近い人が離職している。今の時代、人が足りていないことにより、次の職があるので、離職が可能になっている。

#### 「観光」分野

(委員)

- ・「産業・雇用」分野に比べるとかなり積極的、プラスの評価になっている。
- ・(極端に言えば) 観光という言葉を使うから駄目。行政の施策として観光と表現するのは分かるが、そうではなく、どのような用事でも理由でも人が来ればいいということである。
- ・今回の青森市のアリーナ構想、それはスポーツ施設であるかもしれないが、多目的ということなので、それこそ人を呼ぶ施設、人が呼べる施設である。多目的な部分を本当に期待している。
- ・市がスポーツコミッションという構想を今組織立ててやるということなので、観光もそことの連携が重要である。例えばスポーツの全国大会を誘致すれば、選手や応援団、審判団など、相当な人数がくることになり、経済効果的にはすごい大会になる。
- ・これ(スポーツの全国大会)の一番いいのは青森行きたいねということではなく、ここで大会あるから行かなきゃいけない、泊まらなければいけないということ。観光となると地域間競争があり、ブームなどもあるが、この場合ブームに関係ない。
- ・私の記憶では観光とはその国の光を見ると。昔は観光というと点、それから線に変わって今はゾーン、帯。一日に何回もゾーンを歩いていいところは泊まるが、悪いところはもうそこには行かない。そういう時代なので、現代にあった街づくり、都市経営が必要である。ある程度の民間のノウハウを借りて行うべきである。
- ・観光入込客数は、県では各観光施設、名所等の数字を報告してもらい、その合計を出している。例えば1人の外国人がワ・ラッセ、三内丸山遺跡、弘前城に行った場合、3人でカウントされてしまう。そういった数字でしか把握出来ない。把握するのに確実な数字は宿泊者数ということになるが、それでも述べ泊になるので限界はある。
- ・今の状態をより良くするために何が必要かということが課題である。
- ・インバウンドが全国的に増えているという事は大変喜ばしい事だが、自らの努力で増えた

のかと疑問である。現在、韓国・台湾・中国から来ているが、一過性のものであると感じる。イレギュラーバンドでなく、いかにレギュラーバンドに変えていくかといった視点、状況に左右されないようなアプローチが絶対必要である。

- ・LCC（格安航空会社）が、成田空港等で今後かなり拡充される。LCCとうまくリンクして、今まで来ることが出来なかった国の方が来ることが出来るようになればいいと考える。
- ・東アジアから東南アジアまで広げると、ベトナム、タイ、マレーシアなどの、GDPが上がって所得が上がって、LCCが結構飛び始めている国が人口も多く魅力的であり、順調に所得水準が上がれば、十分なターゲットになる。派手に取り組む必要はないが、そういったところにターゲットを求めて、地道に取り組む必要がある。
- ・欧米に新たなターゲット求めている自治体が結構多い。欧米の方々は1ヶ月単位とか2週間といった大型の日程で来日するし、マナーがいいと言われている。
- ・ポスト・オリンピック（オリンピック終了後には景気が落ちる）についても課題の一つである。
- ・国内航空はMRJ（国産の小型旅客機）のような規模の機材が揃ったときに新規路線をやることになり、その辺を見定めながら、密かに水面下で市場開拓することが必要である。
- ・FDA（フジドリームエアラインズ）は中京圏を結んでくれており、大事にしていけないといけない。
- ・民泊は自治体がどのような条例を作るかに左右される。民泊については通年民泊ではなく、イベント民泊、ねぶた期間中は明らかな客室がない状況であるが、それでも祭りとしては人を取り込みたいので、その期間中の前後であるとか、そういうことで縛らないとトラブルも多くなるし、管理も出来なくなる。一定の水準も必要である。
- ・青森において何を売るかといえば、ねぶたは圧倒的にもっとブランドアップし、弘前や五所川原などうまく連携しながら、いかに世界中に売り込むかということ。もっと売り込める部分というのはあると思う。
- ・売り込みの足枷になるのは宿泊である。はっきりと是非来てくださいとはなかなか言えない。交通とホテルは自前でやってくださいとしか言えない。そういった意味では船が一番。今年も（ねぶた期間中に）毎日入港する。1日2艘入る日もある。ホテルが来るようなものである。
- ・「観光資源の充実」の施策の「青森ねぶた祭活性化事業」のラッセランドの劣化対策についてであるが、ラッセランドのあり方、公共的な施設で観光施設になるようなことの活用方法で新たな方向で考えていかないといけない。このことは真剣に考えないとなかなか大変な話になると思っている。
- ・観光は、青森市ではあるけれども、青森県全体の観光の中核となっているので、他の地域の観光をうまくジョイントしていかに取り込むかが課題である。
- ・市内において一見新しいホテルが建って、客室が増加しているように見えるが、実はピー

ク時よりだいぶ減っている。それは浅虫における客室数が半分に減ったこともある。新しいホテルが建つということで錯覚してしまうが。

- ねぶた期間中は、一昨年は函館が1時間で移動できることもあり、満室状態である。岩手や秋田も同様である。この広域観光、青函の観光都市の連携とかもみんな魚心水心あってそういう話になっている。
- 新幹線に乗る人は乗っているが、そうでない人には結構フェリーが良い。(新幹線料金を)安くすると、フェリーは原油が1ドル1円上がると利益がいくら減るといった世界なので大変である。

### 「農林水産業」分野

(委員)

- 1つの流れとして全国的に農業の担い手不足と、そこを補完するというか、これからの農業経営において、ITやAI(人工知能)、ビッグデータを活用した農業、そのような取組が必要になる。
- 冬場の農業ということでいくと、当然ビニールハウス利用した農業になるが、青森市が豪雪地帯ということもあり、なかなか伸びない。
- りんごに関しては津軽地域では一番北の方に位置するという事で、見栄えは小ぶりだが、味が濃いいという事で評価は昔からいい。青森市の施設も充実しており、輸出販売出来るのは確かである。ただ浪岡地区全体のりんごの3分の1しか施設の方で利用していないので、その辺をもう少し取り入れるような体制を作ることが重要である。
- 耕作放棄地対策事業であるが、今年の4月から農地利用適正化推進委員を各地域に1人を張り付けて監視しており、耕作放棄地はこれから少なくなる。ただ相続しない面積が相当あることが問題のひとつである。
- 農林水産業分野においては、ネットワーク化について表面的に記載されていないが、さまざまなネットワーク化を進めることでより効果的・効率的にやれる部分は十分あり得ると考える。
- 結局そういうことも含めて6次化ということになる。サービスの生産から販売までをどのようにうまく乗せるかということになる。
- 農業の場合は構造的に難しいところではあるが、パートパートでは良い商品やサービス持っているし、先を見た手も打っている。大規模化や若手育成、新規の営農も入りつつある。指標の評価としてC評価の部分もあるが、その部分を少しでも改善していくのと、全体としてこういう事やったらもっと良くなるということをアピール出来るようにしたいらいいと考える。
- 農業移住・新規就農サポート事業、これは農協さんが主体となっている事業で、東青管内を全てまかなっており、私もサポートする側の1人で、りんごの方で1人の若手を今、さまざま指導している。汗かいた分儲けがあるという産業になればいいと思っており、その

ようなモデルが出てくると、次を狙う人も出てくる。

- ・40代50代の新規就農者が多い。そういう人達を指導して、立派な農業家にしたい。
- ・農業の10年後20年後の姿というのは、情報技術産業になる可能性がある。
- ・青森県は農業を基幹産業という位置づけをしており、青森市がそうじゃなきゃいけないということではないが、やはり高品質の農業に転換するために、先端的な、作る場所から市場まで一気通貫でうまくコントロールできるようなネットワーク化が必要だと思う。手段だけでなく、人のネットワークというのでも必要である。
- ・今からそのような生産技術のノウハウみたいなもの、さまざまなデータを蓄積していかないといけない。これから農業移住してきた方や、若い人達が新しい感覚でやる時にそういったものが必要になる。
- ・農業法人の活動がしっかりとすると、そういった形に展開していく可能性が高いと考える。
- ・やはり基盤整備が一番である。景観のまちづくりにも繋がる。(しっかりとすると)いくらかでも作る人はいる。面積がどんどん増える。田んぼの場合は余るということは無いと思う。
- ・青森市内、浪岡地区含めてだが、田んぼの場合、飼料米や酒米などいろいろあるが、一番多いのは食用米である。酒米も増えており、結構ブランド米が出てきて、最近、日本酒は酒米が表示されてブランドの名前になっている。ブランド化していることは作り手にとってもいい傾向である。流通の価格にしても、作り酒屋が引き取るにしても。
- ・農業もこれから情報産業になってきているという前提で組み立てていった方がいい。
- ・さまざまな農地に野菜だとか、例えばトマトみたいなのを作ってもいいが、ロイヤリティの問題が絶対出る。結果的にはトラブルになる。
- ・知人がサラリーマンから農家になったが、結構、感覚が違って、販路をまず開拓、それから生産。常にコンペや品評会に出している。一年目だろうが二年目だろうが出していて、結構評価を得ており、そういった時代が変わってきている。毎日データをつけていてそれが3年になると結果が出て、すごくいい値段になってとか。5年10年経てば一回り、どのような環境にも対応できる。
- ・りんごはそもそも人手がいない。年配の方が、まだはしごを使って作業している。
- ・ベトナムなどの海外の労働者をうまく計画的に受け入れるような仕組みとかも考えていかないと維持できない。

### 3つの行政分野を通じて

(委員)

- ・「観光」分野は今順調に来ているので、それをより形にして、ポスト・オリンピックでも大丈夫な取組やブランド力をいかにして高めていくかが重要である。
- ・「農林水産業」分野は構造的にかなり厳しい状況があるが、良い面も出始めているので、それを伸ばしながら場合によって部分的に撤退せざるを得ないかもしれない部分もある

けれども、トータルとしてバランスのいい形での着地点、そういった中でやはり農業においても情報の機能を充実させ、産業分野全体でもっとネットワークの記載について、今の総合計画よりももっと明確に打ち出していくべきである。

- ・農業、漁業だが、非常に品種が少ない。例えば農業だったら米とりんごが主で、漁業だったらホタテとナマコが主でと他があまり無いという状況なので、どれか一つ駄目な年があると一気に収入が下がってしまう。そういう危険性があるので、農業や漁業の工場化に向けた取組が必要だと感じる。
- ・全般を通じて、今回新たに作るこの計画のキーワードが人口減少下において、という事だと思っている。そういった中でやはり雇用の話も、観光の話も、農業もみんなそうであるが、採用できないという話でなくて、消費人口も減るという事なので、農業や漁業、観光でも国内の人が減る、だからインバウンドだという話も全国でやっているが、そういった交流人口、観光に限らず、農業の部分でもやはり国内消費が下がるという事なので、海外に持っていかないといけない。そうでなければ、経営でいけば身の丈にあわせる、耕地面積を減らす、生産を減らすしかなくなる。今の生産を維持する、もしくはもっと増やすということが前提であれば、販路はもっと作らなきゃいけないというところがこれからの課題となる。
- ・漁業ひとつ見ても確かに品種は少ない。農業も水産もそうだが、市で研究機関は持っている。場合によっては県にもお願いし、いわゆる研究の充実強化を図る必要がある。いかに付加価値をつけて、県外に持っていき外貨を稼いでくると、そういったいい意味での地域交流というか、そしてそこから人が生まれて青森はこうだということを継続的に持っていくといった施策の充実が必要である。
- ・行政がいくら頑張っても限界があり、いくら予算をつけても、金も経費も無駄遣いになるので、きめ細かな施策も必要だが思い切った一球入魂のような施策も必要である。

○次回開催の分科会の日程等に関する事務連絡を行い解散。